

平成31年 3月

# 遠藤由香利 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸  
副主査 廣 岡 保 明  
同 林 一 彦

## 主論文

Possible relationship between *MYBL1* alterations and specific primary sites in adenoid cystic carcinoma: a clinicopathological and molecular study of 36 cases

(腺様嚢胞癌における*MYBL1*遺伝子異常と特定の原発部位との潜在的関連性:36例の臨床病理学および分子学的研究)

(著者:遠藤由香利、桑本聡史、大平崇人、松下倫子、松重貴大、福原隆宏、中本周、林一彦、久郷裕之、廣岡保明)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

## 参考論文

1. SMARCA4-deficient thoracic sarcoma: report of a case and insights into how to reach the diagnosis using limited samples and resources

(SMARCA4欠損型胸部肉腫: 症例報告ならびに限られた検体と資材を使用して診断に至る方法についての洞察)

(著者:桑本聡史、松下倫子、武田賢一、田中那津美、遠藤由香利、山崎章、孝橋賢一、小田義直、堀江靖)

平成29年 Human Pathology 70巻 92頁~97頁

## 審査結果の要旨

本研究は腺様嚢胞癌 (ACC) と診断された36例のホルマリン固定パラフィン包埋組織を用いて、逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 (RT-PCR)、蛍光 *in situ* ハイブリダイゼーション (FISH)、免疫組織化学染色等の解析を行い、ACCにおける *MYB/MYBL1-NFIB* 融合遺伝子異常、*MYBL1* 遺伝子再構成の有無やMYB蛋白の発現異常と臨床病理学的事項との相関を検討したものである。その結果、*MYBL1* 異常群 (*MYBL1* 遺伝子異常を有する症例群) は下顎領域発生が有意に多く ( $P=0.012$ )、疾患特異的生存期間は、*MYB* 異常群 (*MYB-NFIB* 融合遺伝子またはMYB蛋白発現亢進を示す症例群) より *MYBL1* 異常群で長い傾向を示した (有意差はなし)。本結果はACCにおける遺伝子変異と特定の身体部位での発癌との相関が示唆された最初の研究報告であり、明らかに腫瘍病理学の学術水準を高めたものと認める。